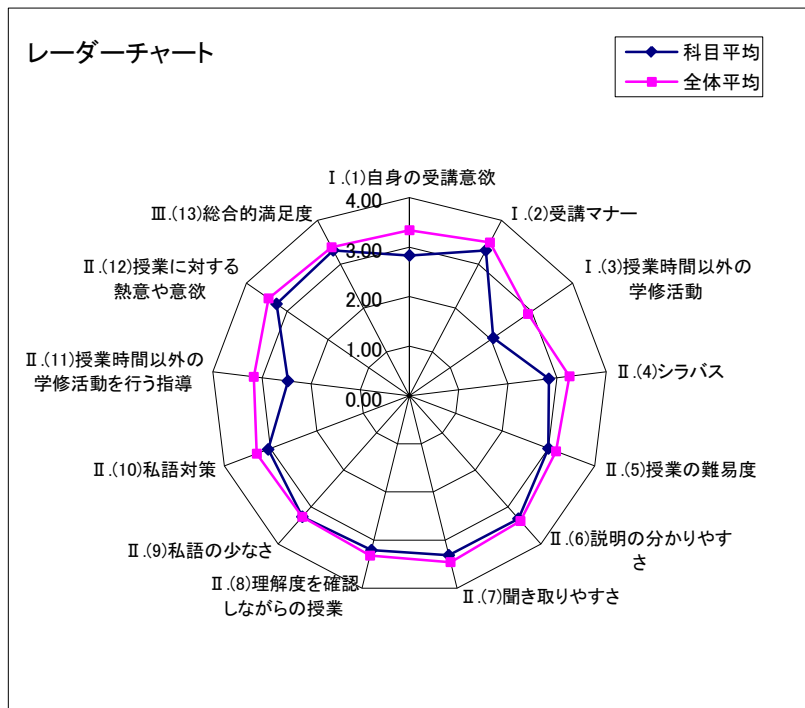
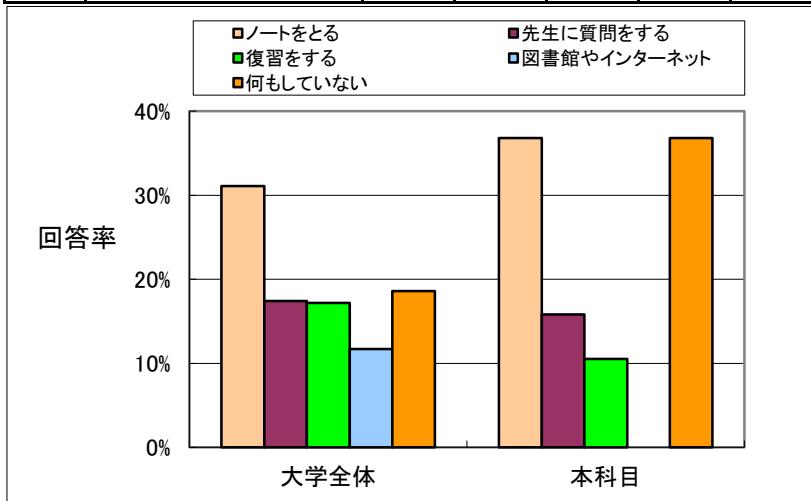


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(14)	授業を理解するための工夫	36.8	15.8	10.5	0.0	36.8



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	2.83	3.34
	I.(2)	3.32	3.49
	I.(3)	2.06	2.91
講義内容・方法	II.(4)	2.83	3.26
	II.(5)	3.00	3.16
	II.(6)	3.32	3.38
	II.(7)	3.32	3.46
	II.(8)	3.21	3.32
	II.(9)	3.26	3.27
	II.(10)	3.05	3.30
	II.(11)	2.47	3.17
	II.(12)	3.26	3.46
	総合評価	III.(13)	3.32

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 I.(1)~(3)	2.73	3.25
講義内容・方法 II.(4)~(12)	3.08	3.31
総合評価 III.(13)	3.32	3.39

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2012年度 後期
時間割番号	3158
科目名	経済統計入門
教員名	

①授業計画の達成度について

15回の授業を4つに区分して、テーマ別に確認テストを実施し、4回の確認テストで学生の達成度を確認すると同時に、平常の授業への参加度を考慮して成績評価をおこなった。授業への参加とは、たんに出席していることではなく、資料のデータを見てわかったことへの質問や、マクロ経済学の見方・考え方についての質問に答えるといった行為をともなうことである。アンケートの自由記述で、この点を取り上げている学生が3名あり、授業を自己評価するならば、微細であるが一つの達成度であると考えられる。難易度については、アンケート結果からもほぼ適切であったと考えている。ただし本来ならば、より理論的な内容を増やることができれば望ましいと思っている。

②授業の進め方について

①で述べたように、4つのテーマに区分し、それぞれに小冊子にした課題集を配布して、毎回到必修課題を完成させて冊子ごと提出してもらい、次回の授業開始時に返却して全員がそろって復習ができるようにした。経済統計の読み取りの背景には、マクロ経済学の見方・考え方が必須である。この点を繰り返し話すことができたと思っている。「授業時間以外の学修活動を行う指導」は特に意識していなかった。「なされていない」というアンケートでの指摘は「その通り」である。反省すべき点である。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

①で述べたように、授業に出席した学生の一人ひとりに、名前を呼んで質問をしながら授業を構成した。進度や情報量といった指標で授業の効率を図ると、このようなやり方は迂遠であり非効率なものとなるのだが、理解の深度と知識の連関といった指標で学習者にとっての効率を図れば別の見方ができるであろう。今後もこのような対話的実践を授業改善計画で精緻化していきたいと考えている。